輕便手編器獨習書



萩原政子先生著

閑院宮殿下
久邇宮殿下
竹田宮殿下
北白川宮殿下
東伏見宮殿下

賜御買上光榮

實用新案登錄

第九〇五〇六號
第一〇一〇三一號
第一〇一二六五號
第一〇一二六六號

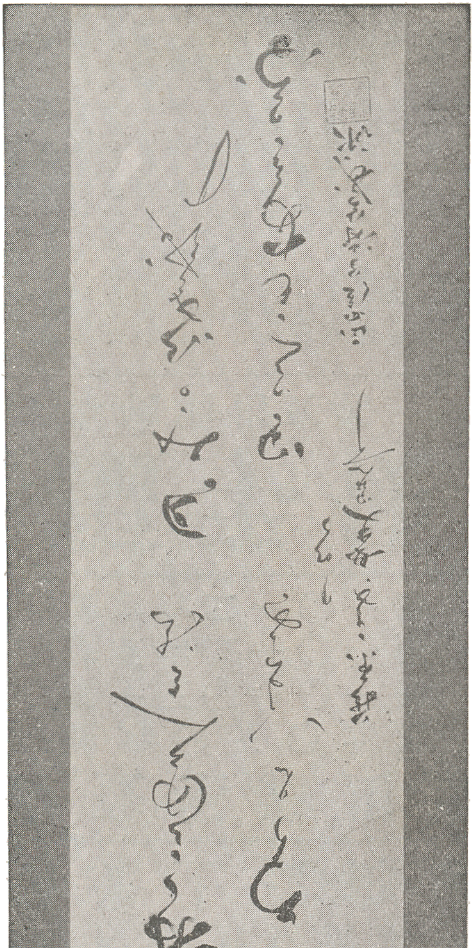
輕便手編器

(一名文化編物器)

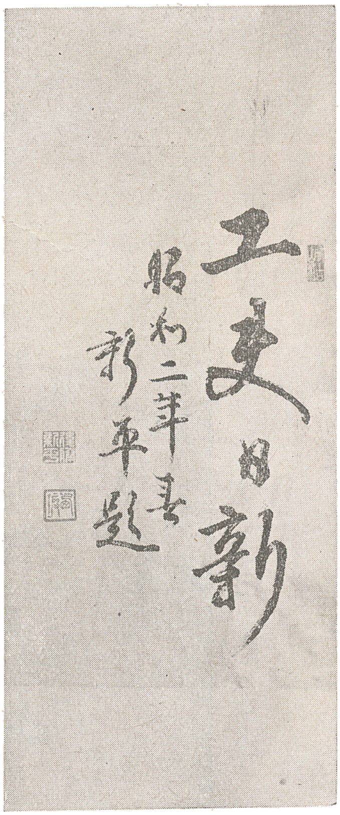
輕便手編器に就て

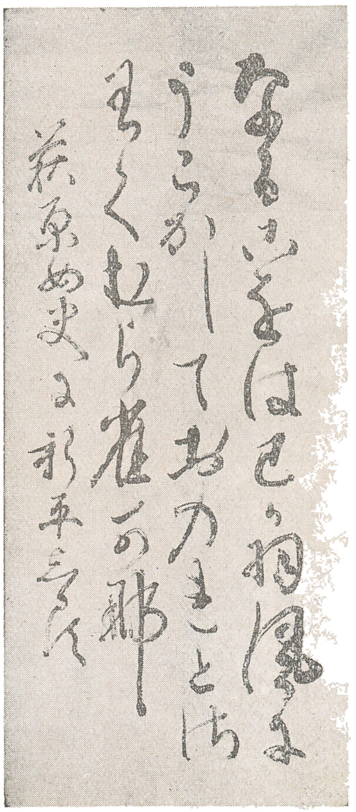
創案者　萩原政子

私は豊ならざる家庭の主婦として子女を養育するにつけても第一に其必要を感ずるのは衣服の調度であらうと存じます。私は此實際問題に接觸いたしまして毛糸の編物を編棒で編むよりも何か他に器械的のもので編み、これによりて時間の節約を計りたいと思ひましたのが、乃ち本器創案の動機であります。而して先づ最初は恰好の木片に西洋釘を並列させ毛糸を右往左往といふやうに掛けて見ましたが、それから端緒を得て遂に本器を完成するに至りました、併し素より機械的の智識に乏しき片田舎の一婦人の事ですから必ずしも完全無缺の品とは申しあげられませぬが大方の御婦人が非常に御共鳴くださいまして御愛用くださされるので私は此上もなく感謝致して居ります、それのみならず畏くも九重の雲井にまでも召されたるは身にあまる光榮と深く肝に銘じて居ります、依て本書の刊行に際し一言を添へておきます。



（子爵後藤新平閣下より輕便文化手編器を賞せられて發明者萩原政子女史に贈られたる書）





（前內務大臣後藤新平閣下題字）



序

邦と土とを問はず社會は一秒々々とセコンドの動く毎に進歩發達して居ります、隨つて其進歩と發達とが即て吾々の生活を脅かして所謂生活難に陷るゝのであります。されば此生活の脅威たる進歩と發達とは吾等の敵として呪ふべきものでありませうか、決して然樣ではありませぬ、寧ろ之を大に歡迎せねばなりませぬ。その之を歡迎する理由は國民が學術を修め、智識を研き他邦に超越する所の科學的の發明を爲し以て國民をして其脅威を免れしめ、安全の地帶に立つ事を得せしむるやうに努力するにあるのです。

彼の亞米利加と云ふ國は土地が廣くて人口が少くて、それでおまけに金が澤山にあるのですから、吾々日本人の眼から見ると、そんなに齷齪として欲張らなくても好さそうに思はれますが、中々然樣でありませぬ。進化は宇宙の法則でありますから、苟くも人類として此宇宙の法則に背く事はできません、若しも是に背いて安閑と日を暮して居りましたならば、遂に其民族は滅亡の淵に沈むのであります。此意味から申しましても米國人は、否獨り米國人ばかりでなく、歐羅巴人でも日常に勤勉努力して發明に心血を注いで居ります。殊に機械的の工業に於きましては、兎ても日本などは問題にならぬのであります。今其一例を擧げてみますと、自動車を製造して居る米國のフォード會社では一分間に三臺乃至五臺の自動車を製造して居ります、日本では壹臺の自動

事を製造するに半歳も壹年もかゝつて居ります、甚だ以て心細い次第であります。而して斯の如き進歩と發達とを來したる根本問題は勞力と時間の節約にあるのです、然るにも拘はらず此處に一の不可思議なる事象があります、それは斯くまで機械的智識の發達してゐる先進國でありながら、歐米の婦人等が今尙原始的とも云ふべき二本または四本の編棒を用ひて毛糸の編物を爲しつゝある事です、概して歐米人は日本人に比べますと手の指先が鈍感で甚だ不器用ですから、疾くに器械的に毛糸を編む方法を案出しさうなものですが、今尙其發明を見ないのは實に不可思議の至りであります。

わが萩原政子女史の創案せられました輕便手編器、一に文化編物器とも云ふ此嶄新なる器械は歐米人に對しても我が日本の誇として耻しからぬ實用至極の發明品であります。尤も工業用としての編物機械は澤山に發明されてありませうが、さうした意味でなく家庭に於て婦人が手を働かして編物をすると云ふ事を主眼としたる編物器は本器を措いては外國にもあるまいと思ひます。それで本器發明の眼目とする所は勞力と時間との節約にあるのですから、本器の使用法を實習して之を各家庭に利用せられたらば、直接には自己を利し間接には國家を益する事と信じます。

大正十五年二月

木花園　苑道春千代識

はしがき

生活改善の一端として、今や一般家庭服裝上の問題に重きをなし、盛んに利用せられてゐるものは毛糸であらうと思ひます。が編物の性質上鈎針、捧針を使用致します事は如何に技術の出來て居る人であつても、どうしても可成りの長時間を仕上ぐるまでに費消する事はよんどころない事とされて居りました、が今回其編物の製作上に必要、不可缺の文化輕便編器が發明發賣され、これを一般の女子に推奬するよろこびは、此の器具の眞價を私自身の實際經驗から認めたからであります。

本器は輕便にして而も編捧を用ゆるよりも製作工程に三四倍の時間節約が出來、技術の練習はほんの數時間の中に覺えられるばかりでなく、編上りの巧拙なく一定に仕上がるのであります、依つて私は平素の主張に基き、本器を現在より一層に廣く全國の各家庭に利用せしめて、大いに働く事を奬勵いたしたいと思ひます。

本器は栃木縣黑磯町と云ふ所謂る、片田舍に住んで居る一婦人の發明したものでありますが、發明の動機が、毛糸編物を速製して生活改善の實を擧げたいと云ふ實際問題から起つたもので、昨夏第十五回婦人技藝敎授法講習會の折其の實驗を依賴され、私自身使用してその利益を認めた

のであります、

本器を推奬するに當り、痛切に思ふ事は主婦として一日も無駄に出來ぬ時間經濟の問題であります、一切の家庭經濟はそこから出發して種々に利用されねばならぬと思ひます。

本器は時間の節約、技術の容易、共にその名に耻ぢぬものでありますに依つて、主婦でも令孃でも、苟しくも家庭經濟に念のある方は進んで御試用をお奬めする次第であります。

今回發明者萩原政子女史が本器のために其の獨習書を發行するにいたり、其の序として本器の眞價を推奬して一文を贈るものであります。

大正十五年三月

日本女子商業學校長　嘉悦孝子

自序

昔から編物は家庭の手藝として最も趣味あり、且つ極めて實用の多いものと稱せられて居るのであります。特に近來は婦人の手藝が著しく發達して、專門の職業としてよりも、一般家庭に於て盛んに流行して來りました。これは實に我國文化の爲め、家庭生活の爲めに喜ぶべき現象なりと思はれます。

私は二十餘年間、あらゆる編物に就て、深く研究致して參りましたが、如何に手先が器用で、根氣が強いと申しましても、中々意の如く迅速に作製する事は出來ないものであります。交通の便が段々進歩して、電車となり、汽車となり、汽船となり、飛行機となる世の中に、獨り手藝の編物が舊套を脱せないのは、甚だ遺憾の事に思はれ、何か速成するやうな方法がなきものかと、久しき間苦心研究しつゝ居りました處圖らず倉持本店の御主人より萩原政子先生の創案せられたる文化輕便手編器の事を話されたるにより、直ちに發明家に御面會して、其の御說明を伺ひ、親しく本器を使用して研究致しました處、思ひの外、實用に適する良器で、從來の手編よりは、遙か輕便なる上に、甚しく勞力と時間が省けて、容易に編物が出來上るのであります。本器は誠に理想的のものでありますから、私は此上なく喜悅を感じました、それから國家經濟の一端にもな

のであります、

本器を推奬するに當り、痛切に思ふ事は主婦として一日も無駄に出來ぬ時間經濟の問題であります、一切の家庭經濟はそこから出發して種々に利用されねばならぬと思ひます。

本器は時間の節約、技術の容易、共にその名に耻ぢぬものでありますに依つて、主婦でも令孃でも、苟しくも家庭經濟に念のある方は進んで御試用をお奬めする次第であります。

今回發明者萩原政子女史が本器のために其の獨習書を發行するにいたり、其の序として本器の眞價を推奬して一文を贈るものであります。

大正十五年三月

日本女子商業學校長　嘉悅孝子

自序

昔から編物は家庭の手藝として最も趣味あり、且つ極めて實用の多いものと稱せられて居るのであります。特に近來は婦人の手藝が著しく發達して、專門の職業としてよりも、一般家庭に於て盛んに流行して來りました。これは實に我國文化の爲め、家庭生活の爲めに喜ぶべき現象なりと思はれます。

私は二十餘年間、あらゆる編物に就て、深く研究致して參りましたが、如何に手先が器用で、根氣が強いと申しましても、中々意の如く迅速に作製する事は出來ないものであります。交通の便が段々進歩して、電車となり、汽車となり、汽船となり、飛行機となる世の中に、獨り手藝の編物が舊套を脱せないのは、甚だ遺憾の事に思はれ、何か速成するやうな方法がなきものかと、久しき間苦心研究しつゝ居りました處圖らず倉持本店の御主人より萩原政子先生の創案せられたる文化輕便手編器の事を話されたるにより、直ちに發明家に御面會して、其の御說明を伺ひ、親しく本器を使用して研究致しました處、思ひの外、實用に適する良器で、從來の手編よりは、遙か輕便なる上に、甚しく勞力と時間が省けて、容易に編物が出來上るのであります。本器は誠に理想的のものでありますから、私は此上なく喜悅を感じました、それから國家經濟の一端にもな

らんかと思ひまして、此の輕便手編器を普及ならしむる爲めに、萩原先生と協力して、此の獨習書を發行することに致しました。また一方には不束ながら私の女塾はじめ、各地に於て講習會を開き、有志の夫人令嬢方に本器の使用法及び應用編物を御敎授申上げて居る次第であります。

聊か玆に私の關係した顚末を記述して、此上一層皆樣方の御賛助を御願ひ致します。

大正十五年十月十日

辻澤女塾主　辻　澤　千　枝



發明者萩原氏講習會の實況

製作品標本寫眞

（其一）



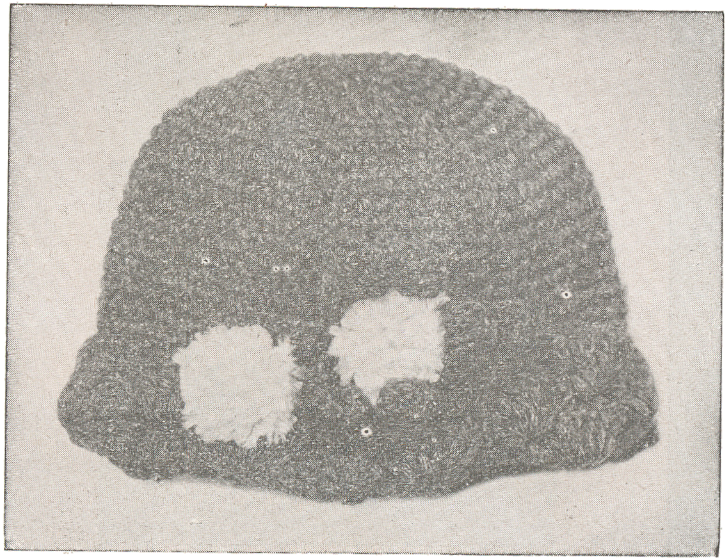
六七才用コンビネーション



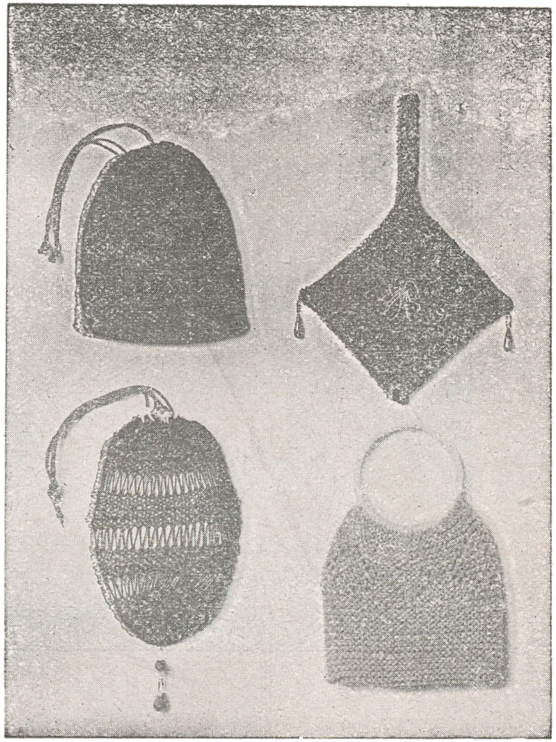
嬰兒用チヤンチヤント七八才帽子

製作品標本寫眞

（其二）



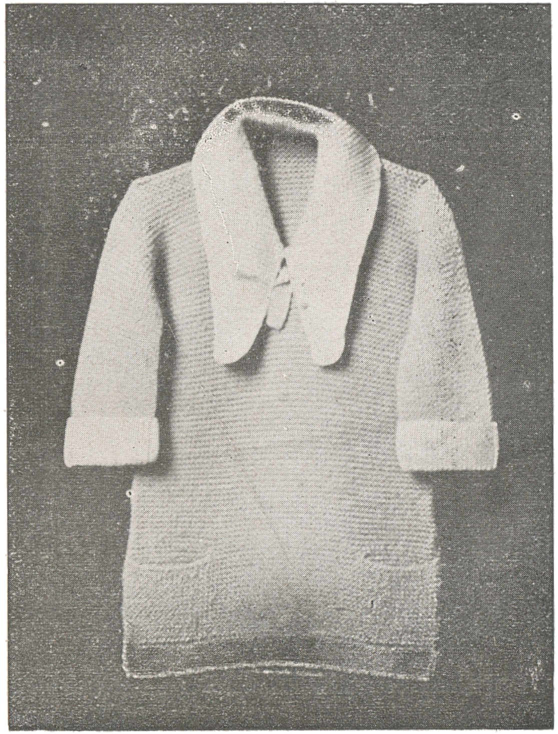
小供冬帽子



手提各種

製作品標本寫眞

（其三）



學生運動着



平和バツク

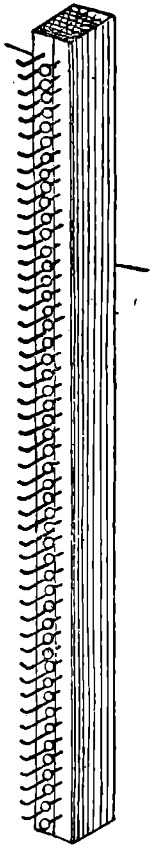
輕便手編器獨習書

(一) 使用法圖解

本器は器機と名附るほど複雜なるものではありませぬ、たゞ『甲板』と稱するものと『乙板』と呼ぶものとを一體となし、それを組み合せて使用するのですから、器械は極めて簡單なるものであります。併し器械が簡單であるから隨て簡單なる物でなければ編めないであらうと想像する人もありませうが、決して然樣ではありませぬ。それは結局本器を使用する人の頭腦の問題であります、依て本書に據りて大體の編み方を獨習した人は、自分の頭腦を働かして嶄新なる編み方を案出せらるゝのが却て趣味があるのであります。

さて順序として本器の個別稱呼を説明いたします、即ち本器を二個に分離した場合には板の上に並列せる頭の圓い玉のやうな針の方を『甲板』と稱しカギ形の針の並列せる方を『乙板』と呼ぶのであります。

輕便手編器全圖



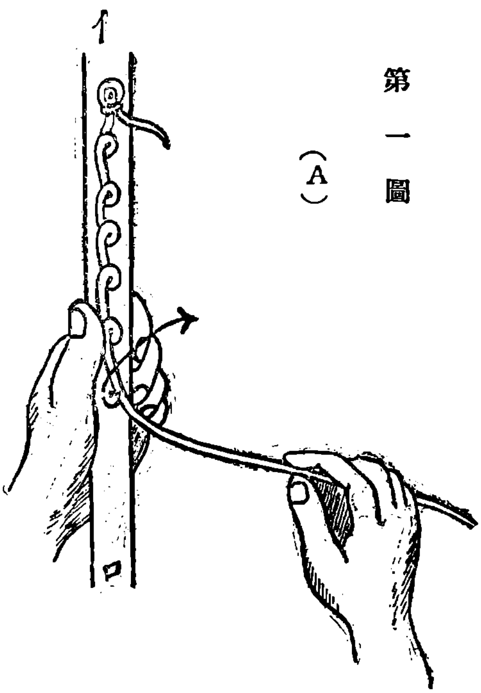
(二) 編目の作り方

本器の稱呼がわかりましたらば、先づ『甲板』の方を左の手に持つ、器體の中心の所を手掌にあて、四本の指先にてかるくおさへます、それから『甲板』を手に持つ前に先づ毛糸の一端に



の如き『輪』を作つて置き、その輪を櫛比してゐる『甲板』のホックス（糸掛）に引掛けて二番目からは順々に第一圖の（A）に示す如く、左の方から一巻づゝからげながら任意の目數を作ります、さうして最後の一目は右の方から引掛けて左に出し、栂指の先にて糸のはづれぬやうにおさへながら（イ）を手前に（ロ）を向ふに振替て『甲板』の左側に『乙板』を合せて『甲板』と『乙板』とを壹體にするのであります。但し最後の

第一圖（A）



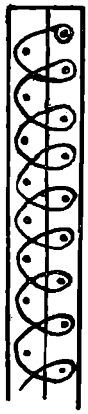
一目は『矢』の向へる方へ逆に糸を掛けます。

云ふまでもなく糸は右の手にて持ち、人差指に溝のあるものと假定して、糸を管に通して織るやうな心持にて糸を扱ふのです、その際に左手の栂指を添へて糸のはづれないやうに心がけて下さい。

任意の目數より一つ少な目にかけて任意の目數のホックス（糸掛針）にまゐりましたらば第一圖の如く反對にねちりて掛けますのは先に述べてある如くであります。これは第二圖に渡つて行く糸の前途となるので最も注意を要る所であります。

第一圖（B）

甲
乙



太い糸で編む場合は第一圖（B）に示す如く甲乙兩板を最初から合せて甲板の「ホックス」へ綾を採る樣に卷いてかけて目的の目數丈かけたならば乙板を除き取りますと糸が少し緩るくかゝりますからはづす時に樂で御座います。

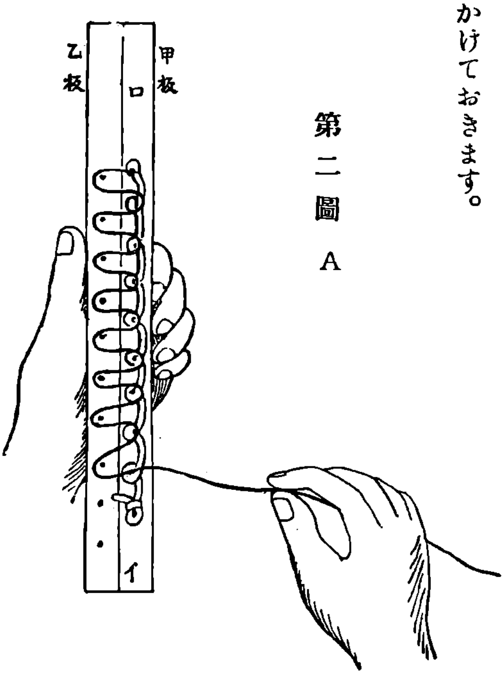
(三) 編み續け方

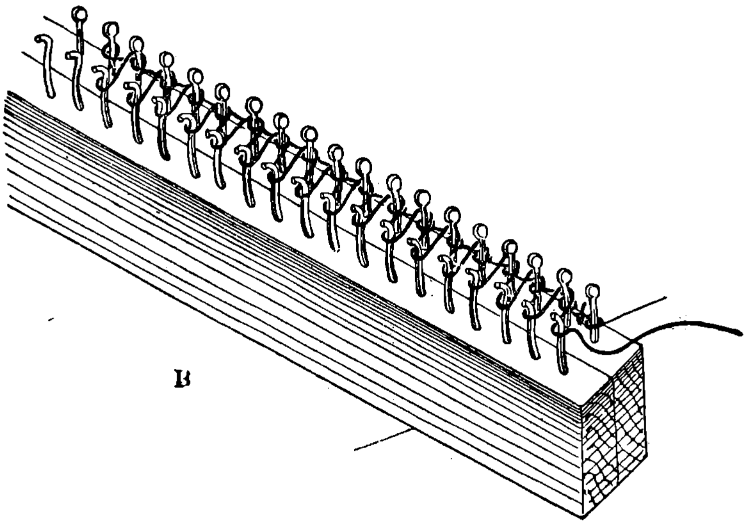
前項の説明に從ひて『甲板』と『乙板』とを合せて本器が一體になりたらば、今度はいよ／＼編み續けて行くのです、器械の持ち方に付て注意する點は甲乙兩板を合せたものゝ下部を持つやうにせねば糸を掛けるに隨つてホックスが糸につれられて接近して編みにくゝなります、そして糸の掛け方は

第二圖の（Ａ）（Ｂ）兩圖を參照して圖に示す如く鋸齒狀に掛けてゆきます。

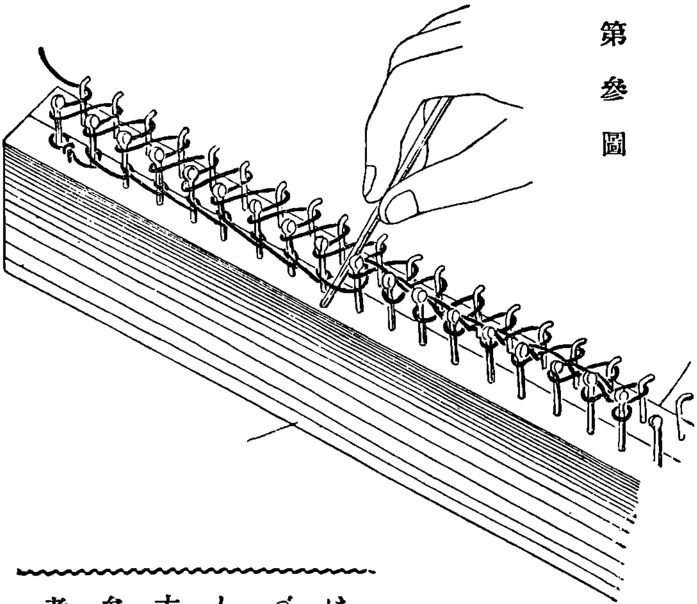
所用の目數を鋸齒狀に掛け終りたらば糸のはづれぬやうに糸を甲乙兩板の間に挾み置くか若くはホックスに二つ三つ餘分にかけておきます。

第二圖　Ａ



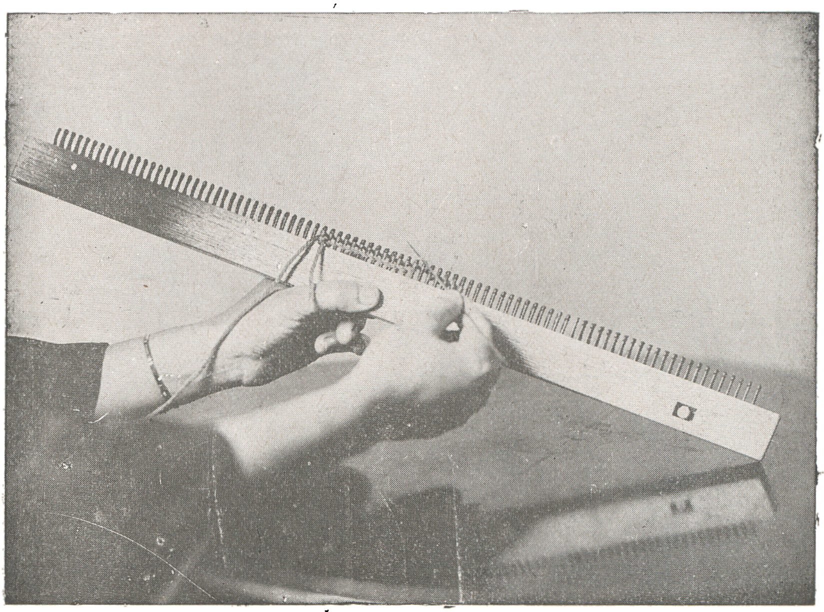


(四) 糸のはづし方



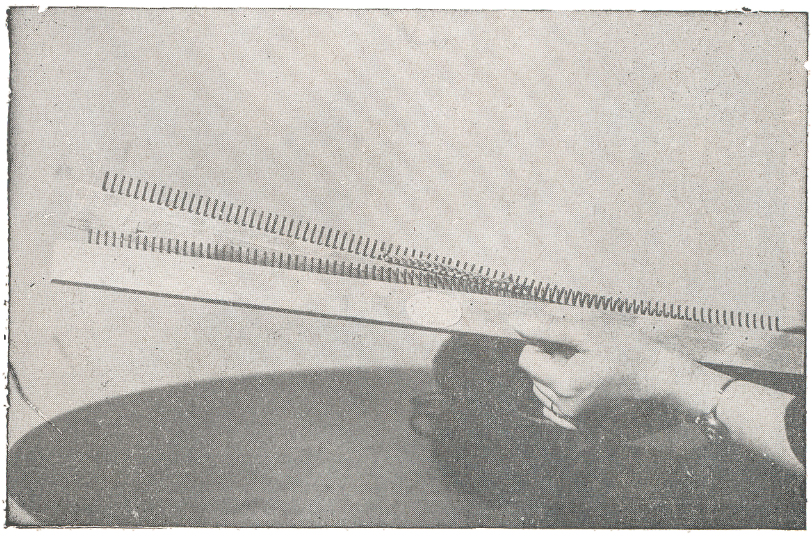
第参圖

はづし方参考

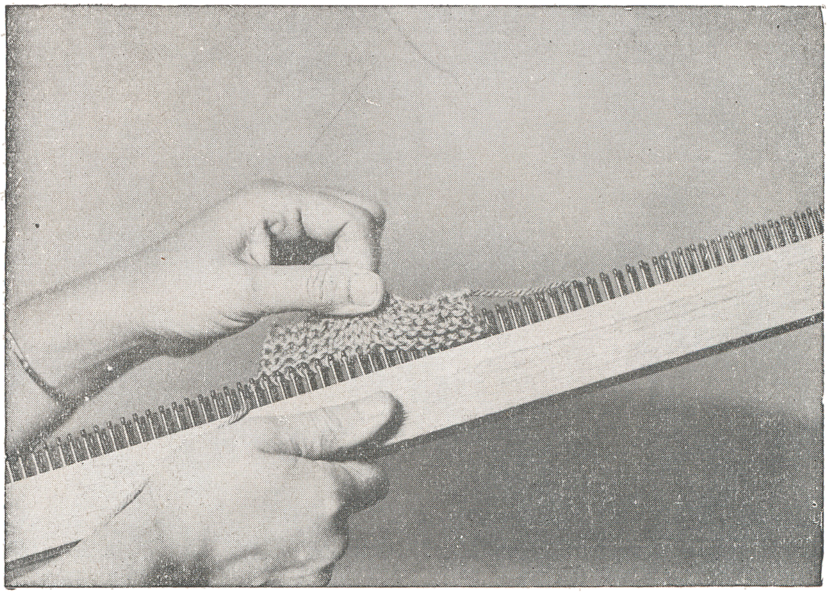


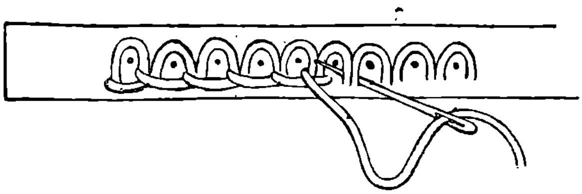
前項に述べたる如く糸を甲乙兩板の間に挾むか若くは餘計にかけて置いて、再び本器（甲乙兩板合せたま）の（イ）（ロ）を向と手前とに振替て（ロ）の方から金屬製の細き棒針にて第參圖に示す如く先の糸をはづします。但し始の一目は其儘にして置き、次の一目は普通にはづし、其次からは二目づゝ一度にはづし一本のホックス（糸掛）に糸が一本殘ればよろしいのです。其時最初に結びてかけたる輪をゆるめて後で千鳥にかけたる糸をだかせる如く其ホックスの頭からはづす事を忘れてはなりませぬ。

(五) 乙板の拔き方



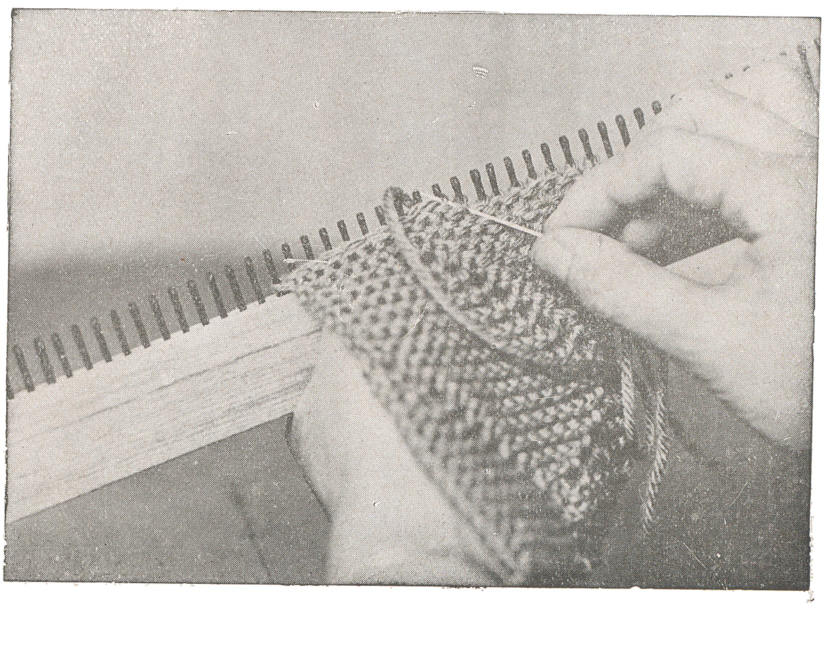
前項說明の如くホックス（糸掛）より糸をはづしたらば、下に示す寫眞の如く、乙板を下方へ拔き取りますと、それで完全に編目が整ひます。夫れから甲板を向ふと手前を振り替へて置いて、また乙板を左側にあて糸を順に掛け終りたらば前と同樣に金屬製の棒針の先で順々に一ッ一ッはづします、此時必ず掛糸子（ホックス）に殘る糸は最後に鋸齒狀にかけた糸が一筋丈になる樣にせねばなりません。其後は糸の掛け方は前の通りで、はづす時は下に示す寫眞の如く棒針を用ひず指先で摘みてはづします。





(六) 糸の止め方

最後の糸の止め方は、編み終りの糸を編巾の約三倍ほどの長さに切りて止め針に通し、甲板のホックス(糸掛)にあるまゝにして上圖の如く隣同士を二本一緒に左から右にすくひ、順に一目づゝ退きながら止めてまゐります、それは恰も返し針で物を縫ふやうにするのです。止め終りたらば其糸先はそこで切らずに、止め針で前の編目約一寸位糸を忍ばせて切ります。下部の寫眞を參照してください。



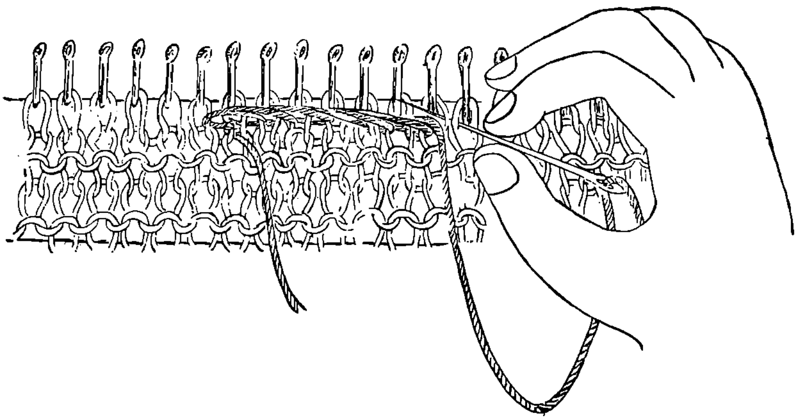
(七) 編目の增し方

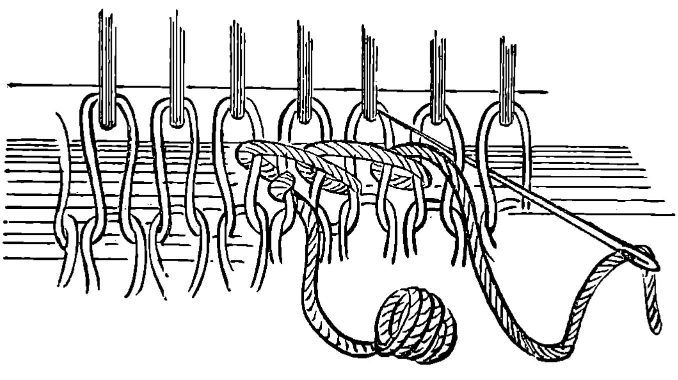
編目を一つ增す場合には編み始めに其隣ホックスに左より掛けて左下へ引出して、其糸先が乙板のホックスに掛るやうになり其後は普通にかけます。

二目以上を增す場合には糸の掛けてある甲板の增さうとする數だけを左卷に糸をゆるく卷きつけ、最後の目は一つ增す時のやうにホックスに卷き、乙板と合せて糸を掛けて前の糸をはづしてかぶせる時には增し處丈は棒針ではづします。(編初めと同じ)

(八) 編目のへらし方

編目を一目減らす場合には最後の目を隣の目に移し重ねて置て編み進めばよろしいのです。二目以上五六目位まで一度に減す場合には「クサリ編」のやうに鉤針にて目的の目數だけホックスからはづしながら取り、最後の輪を隣にかけて置て編めばよろしい、それ以上を一度に減す場合は止針でいくします。





(九) 襟肩のあけ方

襟肩を明けるには先づ、明けやうと思ふ目の所より左隣の一目へ針を通し、その次から目的の目數と右隣の一目だけを、止め方の所で説明したる如くに止めて、其糸先は前身頃を編み續ける時に編重ねてしまゐます、止めた部分だけを器械からはづします。

糸が左右に別れて上前と下前と一時に編んで行くのです。

注意三要

○使用法注意

先づ本器に糸をかける前に器械の間隔を見る必要があります、これは皆さんが編物を爲さる前に糸の太さに依つて編棒を撰ぶと同様に本器は甲乙兩板の間隔によりて疎くも密かくも編まれます、そして其間隔は並太の毛糸として反物の包紙(文庫紙)を板と同じ巾に切りて二枚ほど乙板の内側(マークの無き方)へあて、糸にて結びつけておきます、此方法にて太い糸も細い糸も自由に調節が出來ます、即ち大太ならば文庫紙を四枚、中細ならば當紙なしで編みますが、尚細かに編む時は甲乙のホックスが接近するやうに乙板の内側下部にあて物をするもよろしい。

○色糸に就て

毛糸の種類は澤山にありますから一様には申しませんが、米國製の物ではフライツシヤ、ヤーン、英國製では蝶印などが日本では多く用ゐられて居ります、其中でもフライツシヤ會社の製品は世界的に優良の品と認められて居ります。

糸の太い細いは編む所の品物によりて撰ばねばなりません．即ちオーバー、ヂヤケツ、スエターのやうな衣服の上へ著るものは太い糸で編目を密になし、シヤツ、都腰卷、コンビネーシヨンの類は細い糸でスコツチの混らない糸を撰びて編目も少し疎く編む方がよろしい、袖口だの襟などは幾らか密に編む事は申すまでもないのです、併し日本人としては出來るかぎり内地製の毛糸を使用する方がよろしいと思ひます、輸入超過を防ぐ爲には此心掛が必要であります。

量目換算

一オンス……………七匁五分

一ポンド…(十六オンス)…百廿匁

○色の配合

色の調和、即ち配合は大切なる事でまた中々むづかしい事です、地色に對して何色を配合したらばうつりが好いかさいふ事は相當の苦心を要します、是は各人の好みもありますが、誰が見ても感じのよいものを左に揭げて參考に供します。

地色

淡い黄……淡い青。淡い赤

淡い褐……暗い褐。銀。綠。灰

暗い褐……黑。白。黄灰。橙

淡い靑……赤。暗い靑。黄。橙

暗い靑……暗い赤。白。綠

淡い赤……オリーブ。綠。靑。白

濃い赤……白。金。濃い綠。橙

淡い綠……黄。暗い褐、橙、暗い綠

暗い綠……黑い綠。淡い綠 白

白……………紅。赤。靑。綠

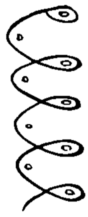
黑……………暗い赤。金。白。靑

淡い灰……暗い灰。暗い赤。暗い靑

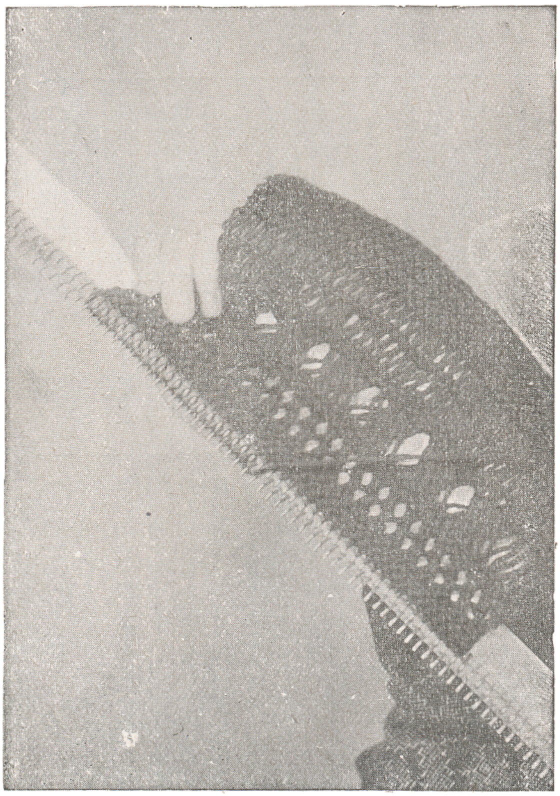
但赤、白、黑の類は大概の色に對してうつりのよいものです。

模様編の編み方

(一)メリヤス編　最初のホックスに糸を輕く一巻きまいて、乙板の方には普通に掛け、甲板の方のホックスには下からすくひ上から引出して乙板のホックスの方に向はしむるやうに上圖の如く掛



けて行きましてはづす時は普通に致します、そして乙板を除いてから糸のねじれを直すために編出してあるものを甲板の右にあつたものを左側に轉廻させます、其時注意すべきは糸口を必ず向ふに置きて、裏面から能く見ながら各掛糸を斜に手前に引きながら抑へつけるやうにして左側に移します、それから之を二度以上繰返せばメリヤス編になります。

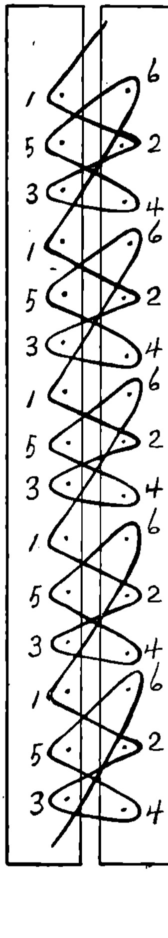


(二)**よろひ編**　よろひ編は自分の希望する縅の長さに適する厚さの『挾み木』を作り、左圖の如く甲乙兩板の間に挾みて編みます。縅を編んで其次を編み出す時は甲板第一の針に内から一巻まいて編み初めますと糸が『キチン』と致します。

(標本寫眞第一段參照)



(三)**ちどれ編**　ちどれ編を編みます場合は左圖の如くに糸を掛け一回編みたらば普通ガーターを一回編み之を繰返せばよろしい。此編方を續けて行ふ時は乙板の方の甲板に接する面に一分位の厚みのものを結び附けて置けば間隔が廣くなりますから編み良いのです。(標本寫眞第三頁參照)



(四)**龜甲編**　龜甲形の如き穴あきに編む場合には、先づ穴より穴までを奇數(九又は十一に定め)一目はづし其糸を隣のホックス(糸掛)へ一赦にかけて、一往復即ち一段編みたらば其穴の兩隣の掛糸をはづし各外側のホックスに掛けて一往復編み此順序に目的の穴數ができたらば、一往復每に同じホックスに就てはづして穴が同じ線に三つ續きたらば前と反對に穴を内側にあけて龜甲形を作ります。(標本寫眞第六段參照)

模樣編標本寫眞



第一段よろひ編

第二段ガーター編

第三段ちゞれ編

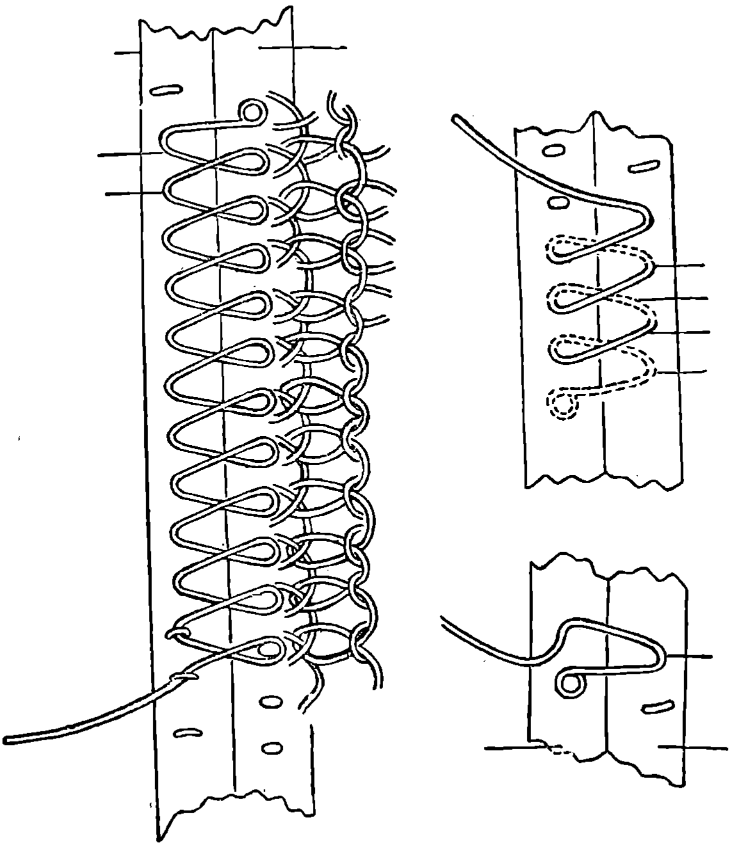
第四段ゴシック編

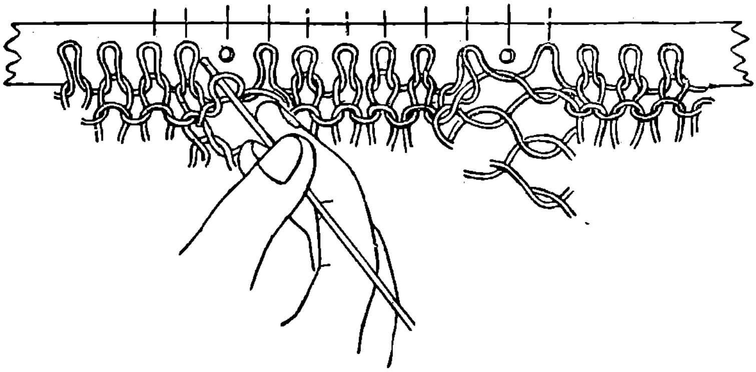
第五段メリヤス編

第六段龜甲形

(五)よぢり編

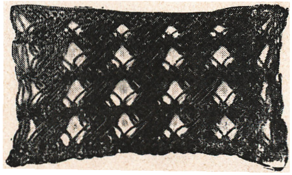
よぢり編は左圖の如く甲板の方から左卷に一つねぢりて乙板とを千鳥掛にいたします。

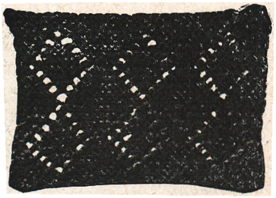




(六)獨鈷編

上圖に示す如く甲板のみを持ちて、六つ目を七つ目に移し、更に其所より數へて六つ目を七つ目に移して、それを繰返して最後まで掛け終りましたらば普通に掛けて一回編みます、此時に注意すべきは六つ目を七つ目に移した時の糸が一針に二本糸が掛つてゐるために、返しづらくありますがそれを氣をつけないと模樣になつてきません。二回目には甲板のみにて一回目の移した所の左隣を、また一つ左に移して普通に編んでそれを繰返してゆきます。



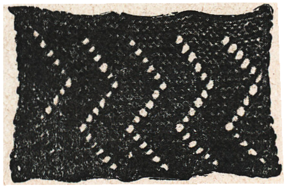


(七)網代編

編目の數を六の倍數に四を加へたものをよろひ編の如くになし、三本宛交叉に掛け、直に其次をガター編に一段だけ編み、それから『挾み木』を用ひて一段掛け、之を繰返して行けばよろしい。

(八)菱編

中心から編目を奇數(九または十一)に定め、一つ目をはづして隣に移し、二回普通に編み、はづした穴の左右をまた其次に移してまた二回普通に編み、如斯して寫眞にある如く開いてしまひましたらば次につぼめます、それは開く時の反對に内側にかけてゆけばよろしい。



(九)山路編

此編み方は菱編の一方を連續したものです、八つか九つ目かに間を離れさせれば寫眞に現れてゐるやうな山路模樣が編めます、

其他模樣編は糸のかけ方と、はづして穴を明ける方法とを應用して編んで見ますれば何十種と無く編めますから皆樣が新工風を擬らすのも又興味ある事で御座います。

編目標準寸法書

○平ゴム編（ガーター編）

大太毛糸	巾六目半	丈六段半	一寸
並太毛糸	巾七目半	丈七段半	一寸
中細毛糸	巾九目	丈九段	一寸

○メリヤス編

大太毛糸	巾六目半	丈九段	一寸
並太毛糸	巾七目半	丈十段半	一寸
中細毛糸	巾九目	丈十二段	一寸

▲注意極細の毛糸ならば二本または三本を合せて用ふべし、平ゴム編は一往復編んで一段と云ふ、メリヤス編は一面編んで一段と云ふ。

○大人用シャツ

後幅　一尺一寸
身丈　一尺六寸五分
衿肩明　三寸三分
胸明　五寸五分
ポケット幅　三寸、深三寸五分位
袖口　二寸七分
襟巾　八分
カブス幅　後一寸七八分にして形は自由に編めます

○小供用シャツ（十四五歳）

後幅　九寸
身丈　一尺四寸
袖付　五寸
襟肩明　二寸八分より三寸
胸明　五寸
袖幅　九寸より一尺（折返別）
袖口　三寸三分

此寸法は御自分の任意に出來す

○小供シャツ（十歳）

後幅　八寸
身丈　一尺二寸
袖付　四寸三分
襟肩明　二寸五分
胸明　四寸
袖幅　七寸五分より八寸（折返別）
袖口　二寸より二寸三分

○小供用シャツ（五六歳）

後幅　八寸
身丈　一尺
袖付　三寸八分
襟肩明　二寸五分
胸明　三寸五分
袖幅　六寸より七寸（折返別）
袖口　一寸八分

寸法は各自の任意に出來す

實物編方二十種

（一）大人用シャツ編方（圖入）

材料　並太毛糸二十オンス

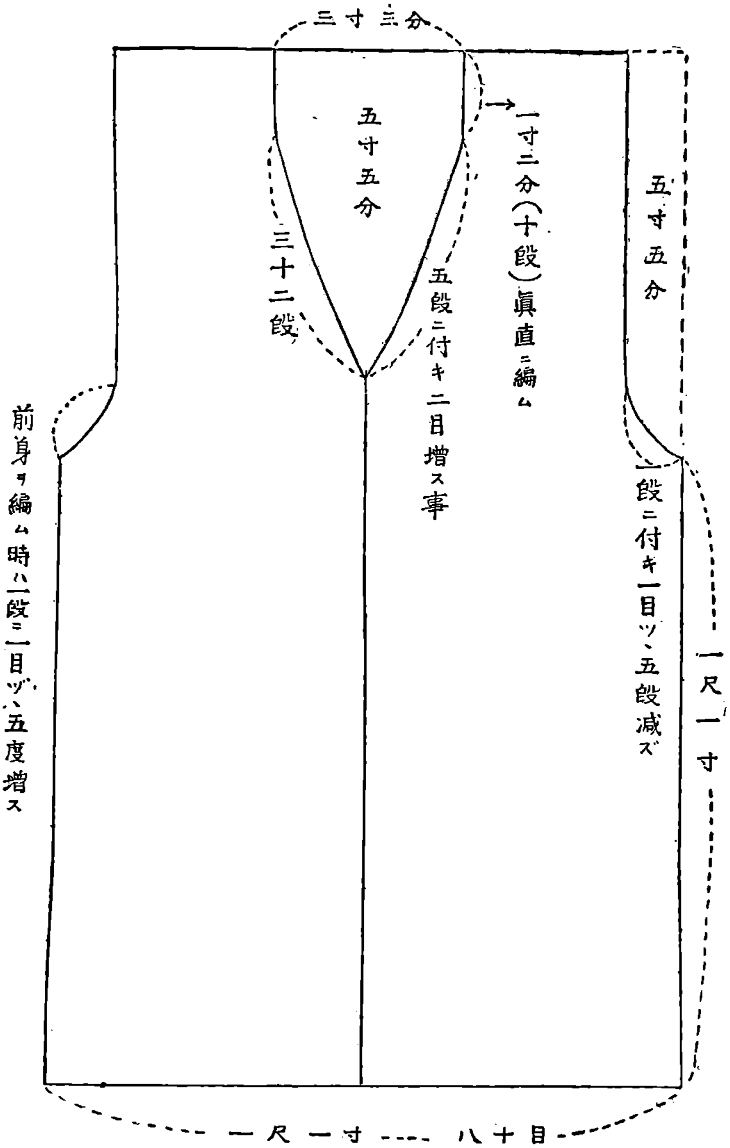
後裾より編み初めます、八十の目を掛けて一尺一寸編み、袖附の所で少しの『クリ』を取ります。斯様に『クリ』を取りますと著よくて肩がたれませぬから恰好よく見えます、『クリ』の取り方は圖に示すやうに兩方一段につき一目づゝ七度減じ、其儘肩まで編みましたら襟肩を中央で二十四目を止め、それより左前と右前と同時に編みます、增減なく五段（六七分）編み、胸明の方で二段置きに一目づゝ十二目を（襟肩明の半數）增して（但し女物の場合は三段置き位に胸明を增すこと）脇の方では後身で減じた目數だけ增して其儘後身丈と同じになるまで編んで止めます、次に袖を編みます。袖の編方は袖下より三目を掛けて編み初めます、袖附の方は身頃で減じてあるだけ增しながら編みます、袖口の方に向つて一段に二目づゝ作り。十四度、次に六目づゝ作りて八度、最後に十二目一度に作りて其儘袖口の二倍（五寸）編みましたらば、編み初めから作つて來ました目數を其反對に減じて止めながら編み終つたらば、袖をつけ、袖下脇を綴合（トヂアハ）せます、それから襟は器械に一杯の目をかけて少

し細かに八段ほど編みて止め、同一のもの尚一本編みますが、これは上前として『ボタン穴』を適當の位置に明けます。明け方は初めから四段に『ボタン』の大小に依り二目乃至四目位を『カギ針』にて二目の時は兩隣へ一目づゝ移し置く、四目の時は中央の目から次の目を掬ひ出して兩側に掛け置き、次に糸をかける時、前にはづしてある目を圖（）の如くに作りて編み、前に編み置きたるものと繼ぎ合せ、身頃に較べて不足の分は再び編み足して編ぎ合せ、それを綴ぢ附けます。カフスは十五目をかけて圖（）の如くに搦み編にいたします。

斯の如くに編みますと、物に引かゝつても糸を引出す憂ひがありません、若し手編にて編む場合には襟は米編（鹿の子編）に袖口はゴム編がよろしい。それから『ボタン』なしの『かぶり』にする場合には襟肩を二十八目止め、其儘三段編み、次に襟肩で止めただけの目を作り、其儘編み、後に襟は手編にてゴム編に致します。

◎注意　すべて事物は應用が必要でありますが、此處に一例を擧げますと、後巾を編み出した時に少し廣すぎたやうならば、袖附で一度に『袖クリ』として十目を止め、前身の袖附では目を作らず、後袖附で止めた十目の中五目を前に廻します、是により狹かつた時は前で廣くと云ふやうに致しますと必ず體に合ふ物が編めます。

大人用シャツ寸法圖

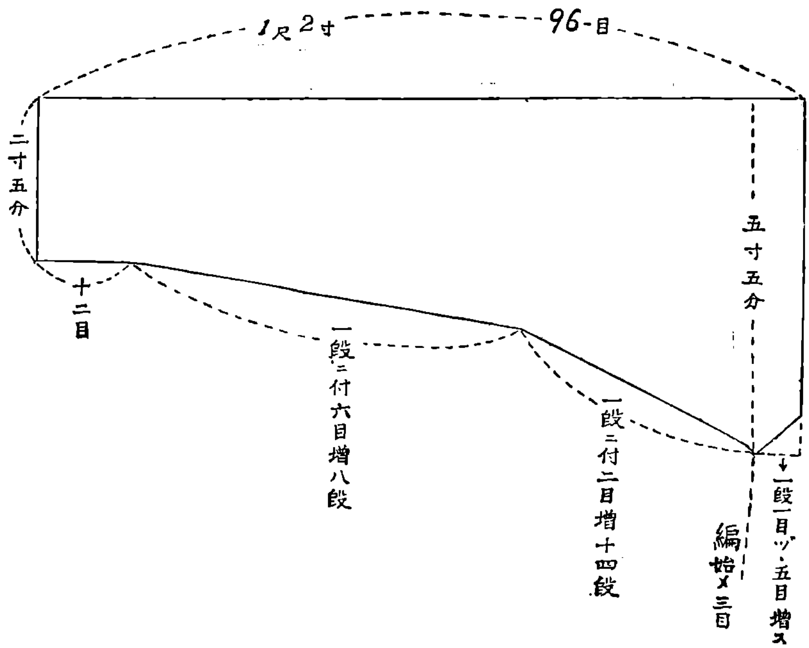


三寸三分
五寸五分
一寸二分(十段)眞直ニ編ム
三十二段
五段ニ付キ二目増ス事
五寸五分
一段ニ付キ一目ツヽ五段減ズ
一尺一寸
前身ヲ編ム時ハ一段ニ一目ヅヽ五度増ス
一尺一寸----八十目

(二)袖の編方(圖入)

袖附を六寸にしたい時には一段に一目づゝ増して、思ひのまゝになし、後は圖と同様に編みます。

袖編方圖



(三)男兒用オーバと帽子

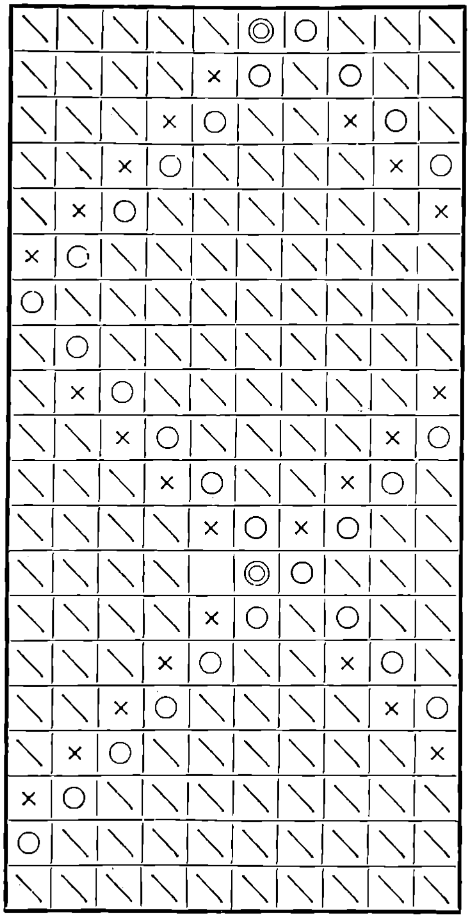
（六七歲）　材料アスト、ラカン一ポンド半。黑四オンス。

此品は少し疎く編む方がよろしいのですから、その心持で著手してください。先づ糸を五十六目掛



六七歲用オーバー

けて五寸編み、兩脇にて一目づゝ減じます、次より一寸編む每に兩脇にて一目づゝ減づる事四度、是にて四十六目となりますから、それより一寸編みて袖附にて兩脇にて三目づゝ減じます（一段に付一目）そして其儘四寸三分編み、襟肩明十六目止め右前は安全ピンに移し置き、左前を其儘三段編み、次に二十目を一度に作りて五分ほど編み、ボタン孔を明ける、（端より五目置いて六目を止める、）次に四寸編みて一つ、四寸編みてまた一つ、都合三つ明ける、脇は後で減じた所で增して編む、後丈と同じに成りたらば止めて右前も同樣に編み、次に袖を編



記號說明
／は普通の掛の記號
○はハッシの記號
×はハッシタル分を糸のある所へ掛けたる記號
◎は三つ重なりたる記號

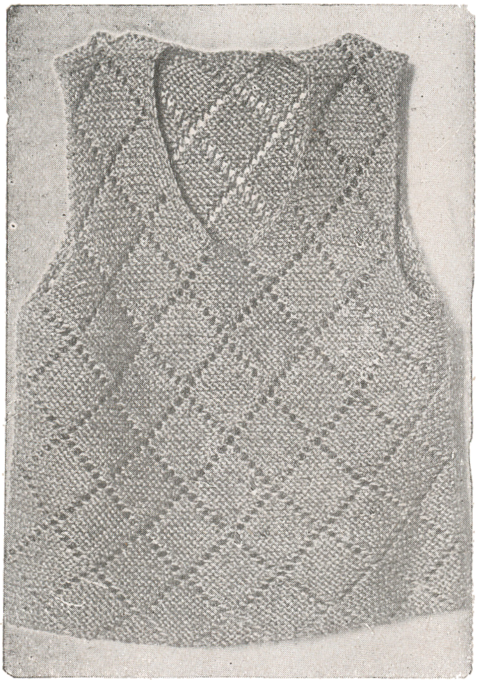
之を編む時に注意すべき事は、後と前とに模樣が脇にて合ふやうにする事です。丈六寸（下より模樣三つ）位編みたらば兩脇にて四目づゝ一度に減じ、次より一目づゝ減ずる事が四回、そのまゝ丈一尺一寸六七分（下より模樣六つ）編み、襟肩明二十二目を止め、そのまゝ二寸編み、次より一段置に一目を增して六度、次に一段に一目を增して五度、是にて襟肩にて止めた半數が殖えましたから、是より左右一緒に編んで行きます、そして後丈と同じに成りたらば止めて脇を合せ襟廻りと袖明とを細編で一廻り編みます。

む、初め三目を掛けて次より袖口の方へ一段に二目づゝ五度、袖附の方で一段一目づゝ三目を増す、次に袖口の方へ一度に二十六目を作り、其儘袖口の二倍、即ち七寸編み、袖口より二十六目を止め、次に二目と云ふやうに細下にて増した目を減じて行けばよろしい。襟は六十四目掛けて三寸六七分編み止める、カフスは黒にて十五目作り、七寸編みて附ける、次に袖をつけ、袖下脇を綴合せて襟をつける、襟は両端を七八分附け殘します。それから最後にボタン孔を縢れば仕上りとなります。

帽子は銀鼠色（アストラカン）三オンスを準備して、先づ六十五の目を掛けて六寸編み、之を輪にすると筒狀になります、此一方に木綿糸を二本通して堅く括り、一方（被る方）を一寸三四分ばかり折返して三四箇所ほど止めて置きます。

(四)菱模様入袖無スエーター（八九歳用）　材料　毛糸六オンス

先づ六十二目を掛けて二段編み、それから模樣を入れます、それは記號を以て示す事に致します。さて其記號は○が明けた目、×が重ねた目、◎は三つ重ねた目、／はそのまゝ編んだのです。



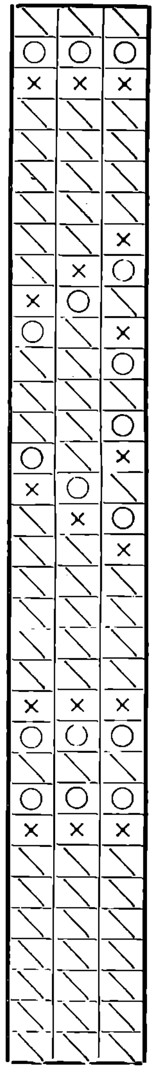
ヒシ模様袖無

(五)縞模様袖無スエター（十一二歳用の龜甲と藤）

材料　並太七オンス別に黒一オンス

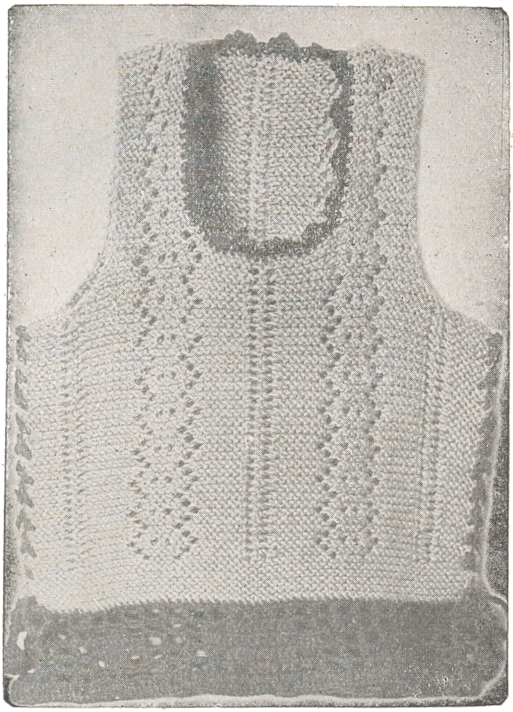
六十七目掛けて二段編みそれで模様を入れる、模様は前と同じ記號にて示します、是は右より中央までの目を示したのですから是より左のは之を返して行く様に明けます。

此圖は片身頃を示したるもので有ります。



（右）

四段は二段と同じ、五段は一段と同じ、六段は二段と同じ、七段は三段と同じ、之を繰返して行きます。丈六寸に成りたらば『袖クリ』は初め五目づゝ、次に一目づゝ五度減じます、身丈一尺二寸襟肩明二十三目止め四寸共まゝ編み、次に胸明にて一段一目づゝ二度増し、右前も左前も同じに編みたらば、次に十九目一度に作り右左一緒にして後と同じに編み、脇はクサリ三尺ほご編み、之を脇を綴ぢ合せる代りに千鳥に通して下で結びて玉を附て置く、襟廻


縞模様スエーター（十二才用）

りと袖明は細編にヒコを廻して置く、裾はクサリと長編と角目に編み所々の目をふさぎて模樣にする。

(六)女兒用オーバースエーター(八九歳)

材料　並太肉色毛糸二十オンス

後の裾より八十目を掛け、二段編みて縞を入れます、裏面にて端折り三目までを普通に掛け、四目を飛び、五目へ掛けて後四目へかけて次に『六目普通にかけ七目を飛び八目へかけ後七目にかける』この『』内の掛方を繰返して終に三目を普通に掛けて編んで行けばよろしい、次より表は普通に掛け裏面は前で飛んだ目を飛んで掛ければよろしい、此樣にして七寸編み、兩脇で一目づゝ減じ、次より八分編む每に一目づゝ六度減ずると六十八目となるそれより一寸編むと丈一尺二寸とな



八九才用女子オーバースエター

る、此所にて袖附の『クリ』を作るため兩脇にて一段に一目づゝ三度減じ六十二目となる、其まゝ袖附五寸となるまで編み、次に襟肩明二十目止め、前は右左共增減なく一寸五分編み、其所から胸明にて四段每に一目增して六度、脇は後に減じたるだけを增し、袖は初め三目を掛け、袖口になる方へ一段每に三目づゝ四度、五目づゝ三度、次に二十三目一度に作る、袖附は身頃にて減じたる三目を增して編み、其まゝ五十三の目數にて袖口八寸になるまで編み、次に袖下にて作りたると反對に止めて行けばよろしい、襟とカフスは引拔編になす、編方はカギ針にて二十のクサリを編み細編一段、次に返して細編を編む時のやうに一度糸をすくひ上げ、次に左の指に糸を卷き、次に針に糸をかけて引出す、此樣に一段編み、次は細編みにて返す、次の段にては又輪を作る、如斯して身頃に較べて襟丈を編む、カフスは袖口に較べて編み、それを附ければよろしい。

(七)女學生用ショール(斜藤模樣)　材料　並太十オンス乃至十二オンス

ショールの類は少し疎く編みます、六十四目を掛けて二段編み、是より模樣を入れます、右より二目置き三目めを四目めの上に重ね、五目めを六目めの上に重ね、十八目を十九目の上に、二十目を二十一目の上に重ね、三十三目を三十四目の上に、三十五目を三十六目の上に、四十八目を四十九目の上に、五十目を五十一目の上に重ねて、糸は普通に掛けて編みます、之を二回編みたらば又右より四

目めを五目に、六目を七目にと云ふやうに前の段より一目、左の目を左に重ねて又二回編みて之を繰返して編むのです。これで一段々々と左に移りて行きますから、縞が左端に來て終りたる時には又右より明けて編み行くのです。



女學生向ショール

(八)女學生用ショール

材料　並太毛糸十オンス

是も前と同じく少し疎く編みます、六十六目かけて二段編む、是は左より數へて六目めを五目に、十二目を十一目に、十八目を十七目に、二十四目を二十三目に、三十目を二十九目、三十六目を三十五目に、四十二目を四十一目に、四十八目を四十七目に、五十四目を五十三目に、六十目を五十九目

に重ねて編みます、一回編みて又左より前と同様に六目を五目に、十二目を十一目へと順に重ねて編みます。



女學生向ショール

(九)婦人用山路模様シーヨル

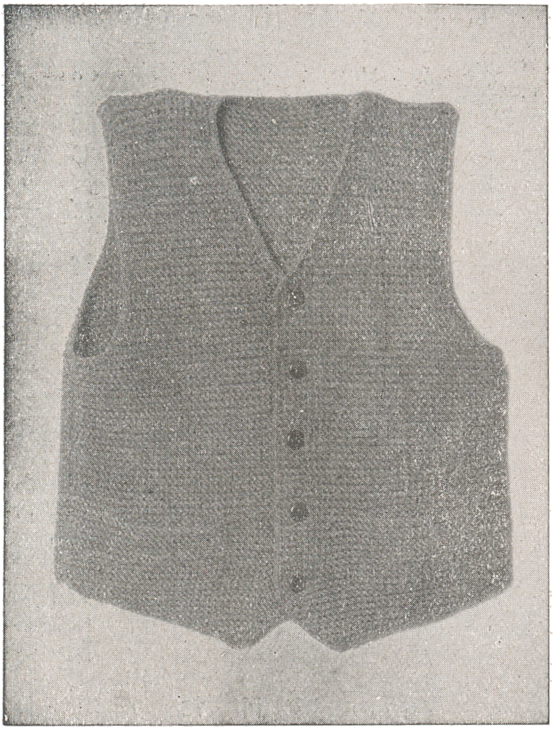
材料　並太毛糸十一オンス

これも少し疎く編みます、先づ六十七目かけて二段編み、右より二目めを三目へ、十五目を十六へ、二十八を二十九へ、四十一を四十二へ、五十四を五十五へ重ねて、糸は普通にかけて編みます、一段

編みたらば次に前の穴の一目左に寄つた目（右より三目め）を左に重ねて編み、一段毎に左へ斜にあけて行きます、而して左端一目の所まであけて來たらば次からはその右の目を右に重ねて編みます、之を繰返して置けば出來上りとなります。

(十)大人用チヨツキ

材料　大太毛糸十一オンス



大人チヨツキ

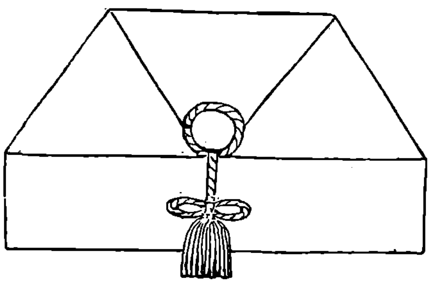
先づ七十八目かけて丈六寸三分まで編み、兩脇にて三目づゝ一度に減じ、次に一目づゝ九度（一段に付）、次に一段を其儘に編み、又一目づゝ一廻り減ずると五十二目になります其儘丈一尺二寸五分まで編み、襟肩二十四目止める、是より右前は安全ピンに移し置き、左前より先に編む其まゝ増減なく八段編み、次より胸明の方へ一段置き、一目づゝ十六目

増し、それより一段編みてボタン孔をあける、明け方は端より三目置いて四目目から、三目を明ける、脇は後に減じただけ増して行くのですが、増し方は同じでありません、即ち肩より三十五段編んでから一段につき一目づゝ七回増し、次に六目一度に目を作り、脇は其儘眞直(マッスグ)に編みます、ボタン孔は十一段毎に五つ明けます、ポケットは下より二寸三分上つた所で、脇より四目置いて五目目から。十八目を安全ピンに移して置きます、そして直に新に十八の目を作ります、それより下を附るために、脇より三目づゝ七度、二目づゝ五度、前では一目づゝ十二度（一段に付）編みながら止めて行きます、ポケットは両端で一目づゝ増して編ん（二十目）で二寸の深さに編みて附けます、右前も同様にボタン孔を明けずに編んで脇を合せ、胸明の廻り、袖あきの所を『コマ編』を一廻りするのです。

（十一）小供帽子（男子用）

材料　ラクダ色並太毛糸一オンス。黒色少量。

先づ黒糸にて八十四目掛けて一寸七分編み、それからラクダ色に取替て二寸編み、其處で半數（四十二目）を安全ピンに移し置き餘りを一段置き、両方一目づゝ七度減じて二十六目になりたらば止めて、安全ピンに移してある分を再び器機に掛けて、前と同様に一段置き一目づゝ二十



二目に成るまで編む、次からは一段一目づゝ減じて終るまで編む、之を綴合せると圖の如き形狀になります、飾りは『コマ編』で圓形の物を作り、ボール紙を圓く切て、それにかぶせて圖の如くに附けます。

(十二)スカート(八九歲)

材料　並毛糸七オンス

先づ七十五の目を掛けて(ガーター八段、メリヤス二段、ガーター一段、メリヤス二段)を一縞となして十五縞を作り、之を輪に繼ぎ合せ、次に帶の所を六十の目を掛けて二寸五分編み、それを前に編み置きたる筒口の一方の半分(ガーター八段を五目、メリヤス二段、ガーター一段、メリヤス二段を三目に)を掛け、之に糸を些か長く掛けて返したらば其儘器械よりはづしてカギ針でクサリに伏せてゆきます、他の一つも是と同樣に編みて兩脇を合せ、



八九才用スカート

それに適當の紐を編みて附ける。

(十三)ズロース（十五六歳）



女學生向ショール　ズロース（十五六才）

材料　並太毛糸八オンス

器械の一方を四十本置き、次より三目、目を作る。さうすると一方は四十七本あります、是が即ち股上で四十本の方が股下です、次より股下で三目づゝ二度、四目づゝ六度、五目づゝ二度、股上で一目づゝ五度、二目一度、三目一度、四目一度次に二十六目一度に作ります、共儘五寸編み、股上で一目増し、四段毎に一目づゝ七目増したらば四段編み、腰廻り九寸五分になりたらば股上で六目づゝ三度止め、股下が前と同じ樣になるやうに止め、股上で四目三度、三目三度、二目四度と止めてゆきます、兩足分が出來たらば股下を合せ裾口の目を拾ひて、ゴム編で二寸ばかり編みます

帶の所もゴム編にて三寸ほど編みて出來上ります。(股下、股上、は交互に増減するのです。

(十四)ベービ用ケープ

材料　並毛糸六オンス



ベービー用ケープ及帽子

是はガーターに模樣を入れたものです、先づ後より六十九の目を掛け、八段目毎に『目あき模樣』を入れて四寸五分まで編み、次より兩脇で一段につき一目づゝ(模樣を入れる時も)減じ、二十五段二十五目づゝ減ずると十九目となるからそれにて止め置き、次に六十三の目を掛け、八段毎に『目あき模樣』を入れ二寸五分編みて前と同樣に兩脇にて一段一目づゝ減じ、二十五目減じたらば止め置き、また是と同じ物を今一つ編みます、即ち是が袖となります、次に前を編み三十六目掛けて八

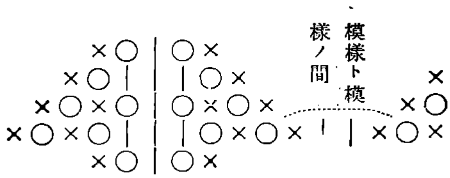
段毎に模様を入れ、四寸五分編み片方袖をつける方で一段一目づゝ二十五目減じて止める、是と同じ物を今一つ編み、次に今まで編みたる物を繼ぎ合せる、繼ぎ方は圖にある如くに、減じたる所の目を拾ひ、是より糸を少し長くすくひ出し（ヘーヤピン編を繼ぎ合せる樣）繼ぎ合せて、襟廻は長襦一つ、クサリ一つを、下の一つを飛し、また長編にて繰返し、次に全體に細編ピコ付を爲し、襟廻は一吋位のリボン一ヤールを兩袖下と兩脇巾半吋位のリボン一ヤール半$\frac{1}{6}$の長さで六ケ所結びつける、本品は和洋服兩樣に用ひられます。

（十五）八九才用半スエーター（リリーヤン赤十六把 同 白一把）（寫眞參照）

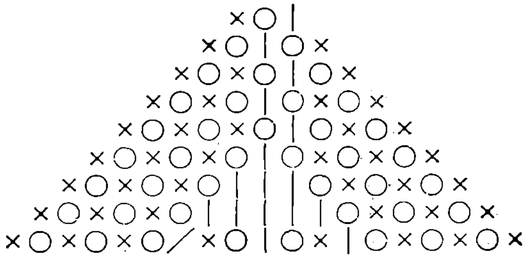
後身裾から八十目かけて初めガーター六段編みましたらヨロイ編みを狹まく一段編んで又ガーター四段次に第一圖に示す樣な模樣を適當の間隔に六ケ所入れながら編み又ガーター二段編んで同樣の模樣を前と互違になる樣に入れて（七ケ所）編みます（寫眞參照）次もガーター二段模樣六ケ所入れ又ガーター四段編んでヨロイ編み一段ガーター二段編み次に第二圖の如き模樣を適當に三ケ所入れて編み此模樣の終つた時に兩脇で五目宛へらし次には前の模樣の終りからつゞいて菱形に成る樣に明けて行きます、其時脇で各段一目宛八回へらし八十四目になる迄へらします、そして其菱形の眞中に四ツ目を明け菱の終つた時第二圖の模樣を二つ（適當の間隔）入れ夫れからガーター二三段編みて襟肩二

十四目を止め其儘七段編み、夫れから後身と同樣に模樣を入れながら編みますが襟明の所で一段置きに一目づゝ、五度各段一目宛七度增し其儘十段編みまして左右一所にして後身と同じ長さになる迄模樣も後と同樣に入れながら編んで止め前身と後身とをとぢ合せ其後袖明襟廻及裾は白でピコッケは致します、紐は適當に編んで附ければよろしいのです。(寫眞參照)

第一圖



第二圖





八九才用半スエーター

（十六）婦人用及女兒用春夏向帽子（寫眞參照）

材料、人絹テープ別名スピーン約六把、二十四インチ帽體、リボン及裏地は各一個分として手藝品店にあり。

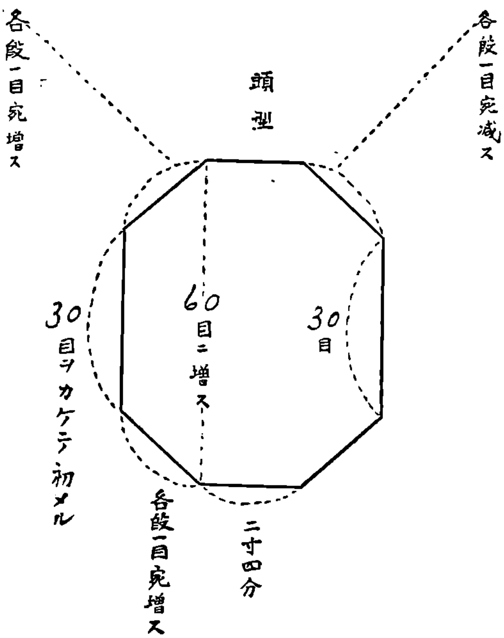
注意、スピーンを用ゆる時に糸巻に巻かないで小さい箱の中又は紙の上にたぐり落して置く方が糸がよれませんで體裁よく編めます。

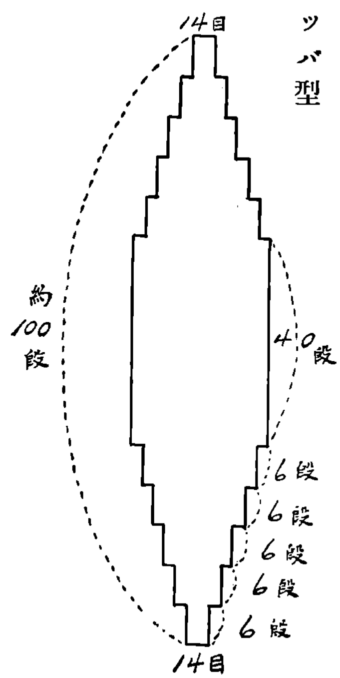
編み方、先づ編器に三十目をかけ普通ガーターに各段一目宛増しながら編み六十目になりましたらば其儘約二寸四分程編み又各段一目宛減じて行つて三十目になりましたら止めます、そう致しますと稍長い八角形になりますから之れを帽體の頭型にかぶせ先づ前後兩側をとぢ付け夫れから中間々を段々にとぢて行く様にして細かく取り附けますと平均に附きます。


婦人用女兒用春夏向帽子

次につば型にかぶせる方は先づ十四目を初めてガーター五六段編みましたら一目宛兩側に増し、又五六段毎に同様に五回程増して二十四目になりましたら其儘約四十段編みます、それから最初増した目數丈反對に減じてまいりまして十四目になりましたならば初めました時の目を拾つて終りの十四目の糸の上に重ねてかけました後甲板乙板の間隔を二分位廣くする様に挾み物をして合せて置きまして糸をかけます、其時は外して行くのに注意致しませんと重ねてある糸を外し殘す事がありますから丁寧に致します、夫れから其儘編器から取りはづしますと各

目の糸足が普通より長く輪になつて居りますから夫れを鍵針で鎖編みの様にして止めてしまいます、そういたしますと一つの環になりますから之れをツバ型にかぶせてとぢ附けました後、頭型とつば型とを取り附け夫れからリボンは各自の好みに依り色を撰び又結び方も適宜にして造花などを附けて飾にするのも随意で御座います、裏は斜切にしたものを縫い合せますと筒形になりますから其一方を疎くくゝり一方を下の椽に丁寧にとぢ附けますと極めて手輕に衛生經濟何れから申しましても理想的の帽子が出來上り





ます。

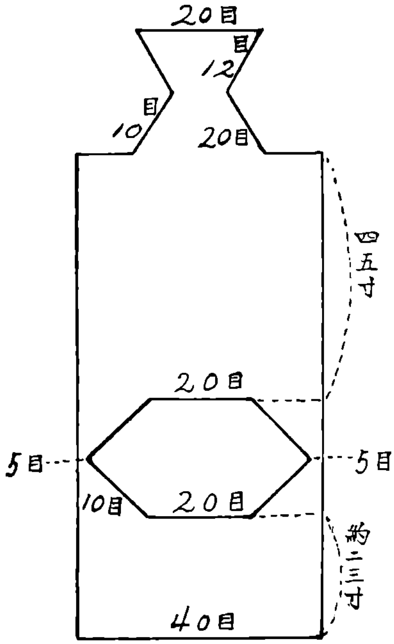
大人用も色と型の撰び様で結構で御座います、又毛立毛糸を用いて編みますと高價のフラシテンの樣になりますから秋から冬の季節にも應用出來ます。（但し金屬製の器械の場合は目が少し疎いから目數を少なく加減した方がよろしい）

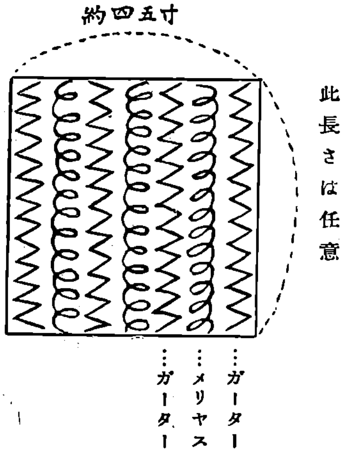
（十七）大人用靴下

材料、並太毛糸約四オンス（中細毛糸と木綿三子糸を引揃へて編みますと大そう丈夫で御座います。）

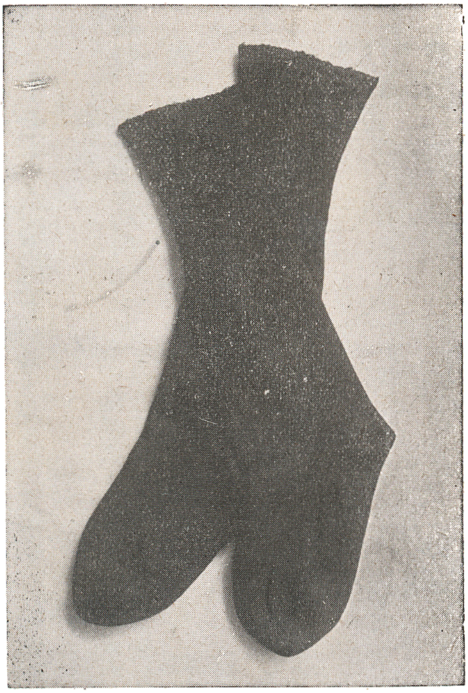
先づ四十目をかけてメリヤス約三寸編みまして、兩側十目宛を殘し中央で二十目を糸をおとすか、

靴下の編み方圖





又は安全ピンにさして假りに外して置き兩側で十目宛殘してあるのを中から各段一目宛段々に減じまして兩側五目宛になりましたならば又各段一目宛增して中二十目明きになりました時、さきに外して置いた二十目を其二十目の明きにかけて其儘四寸乃至五寸（足の長さに依り）編み中二十目を殘し兩側十目宛を假りにはづして置いて中二十目を各段一目宛減じて十二目になつた時又各段一目宛增して二十目になりましたならば器械から外して兩側十目宛と編み終りの二十目とを足のひらになる方へ折り返して編目を丁寧に拾つてとぢ合せ、編み初め三寸の所は足首のはいる樣に上に向けて後ろでとぢ合せます、そして夫れから上の部分は適當の目數に（深さ任意）かけてガーター一度メリヤス一度と交互に約四寸編みまして之れをとぢ合せ筒形として前に編んだものの上部につけますればよろしいのです、そして其後は下の方丈編み替へて附ければ上の部分は何回も使用出來ます。

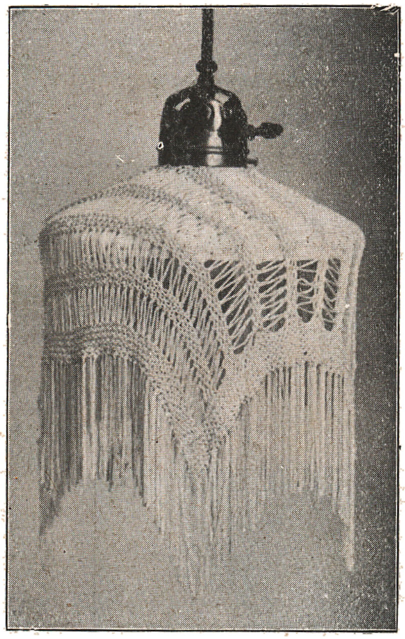


大人靴下

（十八）電燈カバー

材料　リリヤーヤン七把

先づ四十目かけてガーター五段編みましたらヨロイ編を長く一段ガーター三段、又ヨロイ編一段と



電燈カバー

云ふ工合に四回編み五回目のガーター一段半編みましたら中央に穴を明けるのです、其方法は中央から五目宛両方へクサリ編みの様にしてすくい取り六目の所に重ねてかけ都合十目を止め直に止めた丈の十目を造りてガーター一段半編み夫れから前と同様にヨロイ一段ガーター三段と云ふ風にして最後をガーター五段編んで止めます。

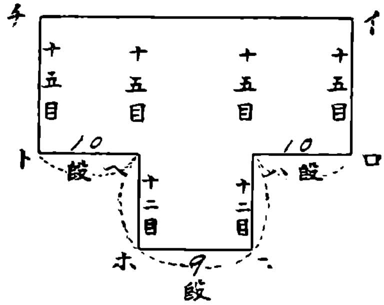
夫れから両側はガーターの所で各段一目宛ヨロイ編の所で一番端の糸で三目作る様に外から捧針を差込んで一ネジリ宛ねじつて輪を作り夫れを掛糸子（ホックス）にかけ都合五十五目かけてガーター五段宛編んで止めます。

周圍の房は厚紙三寸位の巾に切りたものに糸をまき附けて其中央を切り六寸の長さにして夫れを二つ折りに各目に一本づゝ附けるか又は一目置きに二本づゝ附けるなり適宜にカギ針でつけます、所々にビーヅを用ひますと又一段と美觀を添へます。

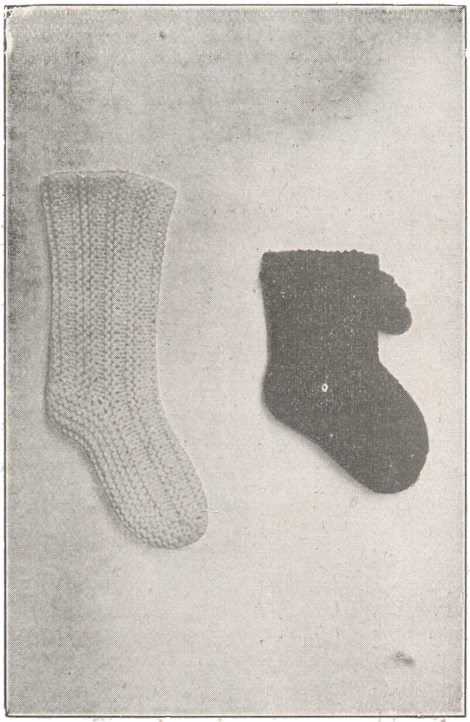
(十九)嬰兒足袋

材料　白並通太毛糸或ハゴク細毛糸四本一オンス餘

第一圖



第二圖



嬰兒足袋

先づ足首の處から編んでゆきます、それから第一圖の（イロ）十五目を作りて「ガーター」（ロハ）

の間十段編み、そして引つゞき（ハニ）十二目を一邊に作り（イロ）と合せて二十七目となし、それを九段編み（ヘホ）十二目だけをかりにはづし置き殘りの十五目を（ヘト）十段あみて糸をとめます、之れを土臺として、それより更に（トヘ）の處を一段に付一目の割合にて十目と（ヘホ）十二目と（ホニ）の中央に至る四目と合せて二十六目を七段編み兩端にて一目つゞ四目（二段）減じ（七段と二段と合せて九段）糸をとめます。他の一方も同じに作り爪先より足のひら足首（トロ）（チイ）へととじ合せて行きます。

上部三分位下りし處へ紐を通し、先きに房をつけますと可愛らしい實用向きのものが出來ます。

文化器の兩端に作りて編みますと一邊に一足出來上ります。

(二十三)二三才用ケープ

材料　白並毛糸十六オンス

編器の端より十二目を殘し、あと全部を二段ガーターとなし、（十二目殘せし方裾）裾の方より模様をつけます、五目を置き、七目を六目に重ね、九目を八目へ、十一目を十目へ、十三目を十二目へ、十五目を十四目へと云ふ樣に五つの穴を明け、十目を置き、又四つ穴模樣をつけ、一段編み、裾の方にて一目ふやし、模樣も一目づゝ下の方に向つて斜に穴が明いて行きます、十二段編器一ぱい迄編み進めてきましたら、今迄と反對の上の方へ向つて模樣をつけて十二段、即ち編み初めの處まできまし

たら、メリヤス編を二回致します、上部肩の方は端より七段編みましたら、上より十六目を一時はづし、一つふやして一段編み、前にはづし置きし十六目を、元通りにかけて三段編みます、(但しふやせ



本恭利川編物着用したるべビー

し目の上は糸が二本になります之れは穴が明かない様にする爲めです）又前同様に十六目をはづし、一段編み十六目かけて三段編む、つまり三段置きに十六目だけ編まないわけです。

右様な山形のものを八度編みまして糸をとめます。

別に十六目かけ四段ガーターして七目はづし一段あみ、七目かけて一段、又七目はづして一段、又かけて一段と云ふ風に上部にて、はづした方にて六十八段編みて糸をとめます。それをとめ針にてガーターの一目一目と、メリヤスの處にてガーター一、メリヤス一、次のガーター二とを一緒にすくつてとじつけて參りますと、丁度一ぱいにつけきれます。

衿は二十三かけて四段あみ、六目はづして二段編みつまり二段置きに（肩の處と同樣）六目はづします、はづした方にて、六十八段編みて糸をとめます。

へらした方を衿のへらした方へ一目づゝつけます。

ボール紙を五十錢銀貨位の大きさにきり、綿を少くつけたものを蕊として、短編みにてかぶせたるボタンを二ケつくり、かたく針にてつけ、一方に鎖編にて輪をつくりボタンかけとなし出來上ります。

大正十五年三月五日印刷
大正十五年三月十日發行
大正十五年四月三日再版
大正十五年六月十日三版
大正十五年八月二十日四版
大正十五年十月十日五版
大正十五年十月廿五日六版
大正十五年十一月五日七版
大正十五年十一月二十日八版
大正十五年十二月十日九版
昭和二年一月十日十版
昭和二年二月一日十一版

定價金六拾錢

著作者　萩原政子

發行者　倉持精市
東京市京橋區新港町四丁目一番地

印刷者　白柳喜作
東京市京橋區新港町四丁目一番地

印刷所　三豐社印刷所

昭和三年春

柴田詢書之